

2024年4月ITERO

キリスト・イエスにある恵みの中でカづけられて、
尊いことに用いられる器、十分に装備された神の人となって、
神のエコノミーの唯一の務めの中でわたしたちの務めを十分に果たす

キリスト・イエスにある恵みの中でカづけられて		尊いことに用いられる器、十分に装備された神の人となって、	
予防注射のための神聖な備え	予防注射する者となる	予防注射の抗毒剤—神の言葉によって	
神の賜物を再び燃え立たせる IIテモテ1:6-7	恵みの中でカづけられ テモテ2:1-7, 15	十分に装備された 神の人となる テモテ3:14-17	M5: 神の言葉を神の息として吸い込み吐き出すこと によって、十分に装備された神の人となる
M1: 神の永遠のエコミー の実際の中で生きて、この エコノミーを成就するのは、 わたしたちの霊を活用する 習慣を建て上げ、神が賜 わったわたしたちの霊を再 び燃え立たせることによ ってである	M3: キリスト・イエスにある 恵みの中でカづけられて、 教える者、兵士、競技者、農 夫、働き人となる	尊いことに用いら れる器となる テモテ2:20-22	M6: 尊いことに用いられる器となり、純粋な心で 主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和 を追い求める
聖なる召しをもって召される IIテモテ1:9	イエス・キリストをいつも思う テモテ1:10, 2:8	M1-6の結論: 霊を燃え立たせ、健康な言葉の模範を守り、恵みの中でカづけられ、 尊い器となり、神の言葉を息として吸い吐き出し、装備された神の人となり、命の 健康な恵の言葉をもって語り、召会を建造する	
M2: 神は彼ご自身の定め られた御旨にしたがってわ たしたちを召す	M4: キリストが死を廃棄し、 命と不朽を現し出したこと と、死人の中から復活させ られた、ダビデの子孫であ るイエス・キリストを、わたし たちがいつも思っているこ と	主があなたの霊 と共におられる テモテ1:13-14、 2:1, 4:22	M7: 主がわたしたちの霊と共にいて、わたしたちをカづ ける恵みとなり、それによってわたしたちが神の永遠のエ コノミーの健康な教えを供給して、命の恵みの健康な言葉 をもって語るができるようになるのは、キリストのから だとしての召会を有機的に建造するためである
		神のエコノミーの唯一の務めの中でわたしたちの務めを十分に果たす	
		予防注射する者に対する奨励	
		テモテ4:05	M8: 「あなたの務めを十分に果たしなさい」

メッセージ 1

神の永遠のエコノミーの実際の中で生きて、
このエコノミーを成就するのは、
わたしたちの霊を活用する習慣を建て上げ、
神が賜わったわたしたちの霊を再び燃え立たせることによってである
聖書： I テモテ 4:7-8, II テモテ 1:6-7, 4:22

序言
今回の訓練の主題がわたしたちに見せていることは、わたしたちが神の永遠のエコノミーの実際
の中で生きるには、どのような人であるべきかです。テモテへの第一の手紙は、パウロが私たちの
模範であることを示し (I テモテ 1:16)、パウロはテモテに信者の模範となるように命じました (I
テモテ 4:12)。テモテへの第二の手紙に来ると、パウロはどのように模範となるべきかの詳細な節
を示しています。I テサロニケ 1:5 によれば、パウロは自分自信がキリストを生きる模範として、
彼の霊的な子供たちを養うことを示しています。パウロは、彼らがどのようにあるべきか、つまり、
どのような人であるべきかを語っています。「人」は非常に重要です。それは人が務めであり、人
がメッセージであるからです。パウロは彼がキリストを生きる人であることをもって、彼の霊的な子
供たちを養います。

MSG 1 の主題と主要な言葉	
霊を活用(訓練)する習 慣を建て上げる	I テモテ 4:7 自分自身を訓練して、敬虔へと至りなさい(霊を活用し、キリスト を生かし出す)。 I テモテ 4:8 なぜなら、体の訓練には多少の益はありますが、敬虔はすべての の事柄に益があつて…
神が賜わったわたしたち の霊を(火の如く) 燃え立たせる	II テモテ 1:6 あなたの内にある神の賜物を、再び燃え立たせることです。 II テモテ 1:7 というのは、神がわたしたちに賜わったのは、臆する霊ではな く、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです。
神の永遠のエコノミー	I テモテ 3-5 ある人たちが(神のエコノミーと)異なる事を教えたり…する ことがないように命じなさい。そのようなものは、信仰の中にある神のエコノ ミー[経綸]ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。しかし、この命令 の目的は……愛です。

神の永遠のエコノミーの実際の中で生きて、このエコノミーを成就するのは、 わたしたちの霊を活用する習慣を建て上げ、 神が賜ったわたしたちの霊を再び燃え立たせることによってである			
I	神の永遠のエコノミーは..	キリストが中心であり、聖書の題目であり、分与により完成されます	A 神のエコノミーの 内容 -キリストが内容、中心 B 神のエコノミーの 認識 -聖書の中心的な主題 C 神のエコノミーの 完成 -分与と構成によって
		新約のリーダーシップであり	D 制御する啓示のリーダーシップ E 神のエコノミーの教えにとどまる
		エコノミーの目的です	F 神聖な分与の結果 G 神のエコノミーの中の分与
II	人の霊が中心	神は彼のみ旨を完成するために人に霊を造られ、人は堕落し人の霊を軽視した	A 人が造られた目的 B 宇宙と人の意義 C 人の堕落の結果
		神は彼の救いの中で、人の霊を回復された	D 人が持つべき訓練 E 神のエコノミーの中心点
III	分与を受けける鍵— —霊を活用（訓練）する	霊を活用（訓練）する意義を認識する	A 分与は霊を活用（訓練）することによる B 訓練（活用）する習慣を建て上げる C 霊を再び燃え立たせる D 魂の各部分を対処する
		霊を活用（訓練）する習慣を建て上げる	E いつも喜び、絶えず祈り、あらゆる事で感謝する F 思いを霊に付ける G 魂と霊を識別する H 正常な召会生活をし、堕落に打ち勝つ I 神の権益のために祈る

わたしたちの霊を活用(訓練)することと、神の永遠のエコノミーとの関係



クリスチャン生活とは敬虔の生活であり、神がご自身をわたしたちの中に分与することから来るものです。このことは、わたしたちの霊を完全に活用(訓練)することにかかっています。

敬虔とは、キリストがわたしたちから生かし出されて、神が肉体において現わされることです。今日、このキリストはその霊としてわたしたちの霊の中に住んでおられます。ですから、自分自身を訓練して、敬虔へと至るとは、わたしたちの霊を活用(訓練)し、日常生活の中でキリストを生かし出すということです。

神のエコノミーと神聖な分与のビジョン

- I. 神の永遠のエコノミーとは、神の家庭の行政であり、それは彼の選ばれた人の中へとご自身をキリストの中で分与し、神が家を得てご自身を表現することです。この家は召会、キリストのからだです。神の永遠のエコノミーは、神の永遠のご計画であり、神の神聖な分与は、神がご自身のご計画を完成する手段です—— I テモテ 1:3-4, 3:15. ローマ 12:5. エペソ 1:10, 3:8-9, 2:10 :

神のエコノミーの内容——キリストは、神のエコノミーの中心

- A. キリストは、神のエコノミーの中心、周辺、要素、領域、手段、目標、目的です。事実、神の永遠のエコノミーの内容はすべて、ただキリストです——マタイ 17:5, エペソ 3:6, ルカ 24:44。

*神のエコノミーの認識——聖書の中心的な主題は神のエコノミー

- B. わたしたちが神のエコノミーを認識していないなら、聖書を理解することはないでしょう。聖書の中心的な主題は神のエコノミーであり、聖書全体は神のエコノミーに関するものです——ルカ 24:45, ヨブ 10:13, 参照、エペソ 3:9。

*神のエコノミーの完成——神の分与によって完成する

- C. 神のエコノミーは、ご自身をわたしたちの存在の中へと分与して、わたしたちの存在が彼の存在をもって構成されることです。この事は、神がご自身を神聖な命としてわたしたちの中へと分与することによってのみ完成されることが出来ます——ヨハネ 10:10, 14:6 前半, I コリント 15:45 後半, ローマ 8:2, 6, 10-11。

*神の永遠のエコノミーは、啓示を制御する新約の務めによって取るリーダーシップです

- D. 新約の務めにおけるリーダーシップは、神の永遠のエコノミーの、制御する、神が賜った啓示のリーダーシップです——使徒 26:19, 箴 29:18。

神永遠的经纶乃是由控制启示之新约职事来领导

新约职事中的领导, 乃是神所赐关于神永远经纶那控制之启示的领导

*神のエコノミーの教えにとどまる

- E. 神のエコノミー以外の異なる教えは、わたしたちの命またすべてである主イエス・キリストの尊いパーソンに対する真の評価、愛、享受からわたしたちを引き離します (II コリント 11:2-3)。異議を唱える者たちの異なる教えは (I テモテ 1:3)、信者たちの間にねたみと争いを引き起こしました。この事は、神のエコノミーの教えにとどまるようにという使徒の命令の目的 (対象と目標) である愛に反します (I テモテ 1:5, ヨハネ 13:34, ガラテヤ 5:13-14)。

*神聖な分与の結果——命と性質において神とします

- F. 神の神聖な分与は、信者たちを神とならせ、彼らを神格においてではなく、命と性質において神とします。それは、キリストのからだとしての召会を建造するためであり、またキリストの花嫁を用意して、キリストの王国をもたらすためです。この定められた御旨のために、神は人と成って、ご自身を「人化 (man-ize)」しました。それから、神はご自身を命としてわたしたちの中へと分与して、わたしたちを神の神格においてではなく、神の命と性質において「神化 (God-ize)」しています。

*神のエコノミーの中の分与

- G. 神のエコノミーにおける神の意図は、彼の神聖な三一 (父、子、霊) の中でご自身を彼の選ばれた人の中へと分与することです。時間における神の唯一の目標は、日ごとにご自身をわたしたちの中へと分与することです。

神の意図の青写真——人の霊が中心

- II. 神の当初の意図の「青写真」において、人は全宇宙の中心であり、人の中心は人の霊です——ゼカリヤ 12:1, 創 2:7, 箴 20:27 :

*人が造られた目的——神を受け入れ、神を表現し、神と一となる

- A. 天は地のためであり、地は人のためであり、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは、人が神と接触し、神を受け入れ、神を内容とし、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を成就し、神を表現し、神と一になるためです——ヨハネ 4:24, I コリント 6:17。

*宇宙と人の意義

B. 神が霊でないなら、そしてわたしたちが神と接触し神と一になる霊を持っていないなら、全宇宙は空虚であり、わたしたちは無です——伝 1:2. 3:11. ヨブ 32:8. 12:10. IIコリント 4:13, 16-18。

***人の墮落の結果一人に霊があるのを承認することを拒否した**

C. 人は墮落のゆえに、人の霊を見落とし、軽視しただけでなく、さらには人に霊があるのを承認することを拒否しました——Iテサロニケ 5:23. ヘブル 4:12. 参照、ユダ 19節。

***人が訓練すべきこと一人の霊を活用すること**

D. 人は器として、彼の霊を活用することを通して、キリストにある神を命の木として受け入れるべきでした。それは、命が川として人の最も内なる所に流れ込み、またそこから流れ出て、人を造り変えて尊い材料とならせ、神の建造、すなわち神の永遠の表現とならせるためです——創 1:26. 2:7-12, 22. Iテモテ 4:7-8:

1. 神の息はわたしたちの人の霊となりました。わたしたちの霊は神のともし火であって、油としての神を内容とし、わたしたちに光を与えます——創 2:7. 箴 20:27。
2. 人の霊は人の墮落を通して、壊れたともし火となりました。しかし神の救いにおける神の回復を通して、人の霊は、命を与える七倍に強化された霊をもって、再生され、再建され、強められます——創 2:7. 箴 20:27. ヨハネ 3:6. 啓 4:5. Iコリント 15:45 後半。
3. 人の存在の中央政府また最も重要な部分は、人の霊であるべきです。人の霊によって支配され統治されている人が、霊の人です——Iコリント 2:14-15. 3:1. 14:32. IIコリント 2:12-15. エペソ 3:16. Iペテロ 3:4. ダニエル 6:3, 10。

***神のエコノミーの戦略的な中心点——神の霊と人の霊のミングリング**

E. 神聖な霊がわたしたちの人の霊の中に住んでいること、二つの霊が共にミングリングされて一つ霊、すなわちミングリングされた霊になっていることは、神のエコノミーの戦略的な中心点です——ヨハネ 3:6. 4:24. ローマ 8:16. IIコリント 3:17. IIテモテ 4:22. Iコリント 6:17. Iテモテ 1:4. IIコリント 4:13:

1. 神のエコノミーを成就する大いなる道は、わたしたちが霊を活用することによって、霊にしたがって生き、すべてのことを行なうことです——ヨブ 10:13. エペソ 3:9. ローマ 8:4. ガラテヤ 5:25。
2. わたしたちは霊に戻って霊を活用するときはいつでも、からだに触れます。なぜなら、からだはわたしたちの霊の中にあるからです——エペソ 1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18。
3. わたしたちは霊の中にいるとき、この世に打ち勝ち、罪を犯すことができず、邪悪な者はわたしたちに触れることができず、わたしたちは偶像から守られます——Iヨハネ 5:4, 18-19, 21. ヨハネ 14:30。

命の成長のかぎ——霊を訓練(活用)して、霊を再び燃え立たせる

III. 神聖な三一の神聖な分与を受け、この分与の経路となって、聖徒たちが命において成長してキリストを享受するようにさせるための**かぎは、わたしたちの霊を活用すること**、すなわち、神が賜わったわたしたちの霊を再び燃え立たせることです——ピリピ 1:25. Iテモテ 4:7-8. IIテモテ 1:6-7. 4:22. 使徒 6:10. Iコリント 14:32:

***分与は霊を活用して、キリストを生き、表現することにかかっています**

A. 敬虔は、神を表現する生活であり、神聖なエコノミーのための神聖な分与の結果です。この分与は、わたしたちの霊を活用して、わたしたちの日常生活の中でキリストを生き、召会生活の中で神を団体的に現すことにかかっています——Iテモテ 1:3-4. 3:15-16. 4:7-8. IIテモテ 1:6-7。

***霊を活用するという強い習慣を建て上げる必要があります**

B. 「訓練(活用)して」という言葉は、強いることを暗示します。わたしたちクリスチャンが強くなることを願い、主の中で成長することを願うなら、自分自身を強いてわたしたちの霊を用いて、ついにはわたしたちの**霊を活用するという強い習慣を建て上げるに至らなければなりません**——Iテモテ 4:7。

***霊を活用することは、わたしたちの霊を再び燃え立たせることです**

C. わたしたちの**霊を活用することは、わたしたちの霊を再び燃え立たせることです**——IIテモテ 1:6-7:
1. IIテモテ第1章6節は「神の賜物」について述べており、また7節が示しているの

は、神がわたしたちに賜ったものが、力と、愛と、冷静な思いとのわたしたちの再生された霊、わたしたちのミングリングされた霊であるということです。こういうわけで、神の賜物は、神が賜ったわたしたちの霊です。

2. わたしたち救われた者は、クリスチャン生活と召会生活をする資本を持っています。この資本は、神が賜ったわたしたちの霊です。
3. 火は、聖霊が内住しているわたしたちの再生された霊の中にあります。実は、わたしたちの霊が火です——ルカ 12:49-50、ローマ 12:11、啓 4:5、箴 20:27。

*そして、魂の各部分を対処する必要があります

D. わたしたちは霊を活用するために、わたしたちの霊を取り巻く魂の各部分、すなわち、わたしたちの思い、感情、意志を対処しなければなりません——参照、I ペテロ 3:4:

1. 力の霊は、服従させられ復活させられた意志を伴う霊です。愛の霊は、愛としての神で満たされた感情を伴う霊です。冷静な思いの霊は、新しくされた思いを伴う霊です——II テモテ 1:7。
2. わたしたちの親愛なる主イエスは、わたしたちの魂の牧者また監督者です。わたしたちの魂は、わたしたちの内なる存在、わたしたちの真のパーソンです。わたしたちの主は、わたしたちの内なる存在の益を顧みることによって、またわたしたちの真のパーソンの状態を監督することによって、わたしたちを牧養します——I ペテロ 2:25、詩 23:1-6、参照、ヘブル 13:17。
3. 霊を活用することは、わたしたちの魂の各部分と関係があり、神のエコノミーの実際の中で生きるために非常に重要です。ですから、わたしたちは、「弟子たちの魂を堅固に「する」」ことによって、主の天の務めにおいてわたしたちの主と協力する必要があります——使徒 14:22。
4. 弟子たちの魂を堅固にすることは、彼らを以下のことにおいて堅固にすることです。(1) 彼らの思いにおいて。これは、彼らが主と主についての事柄を知り、理解するためです (I コリント 2:16、ピリピ 3:10)。(2) 彼らの感情において。これは、彼らが主を愛し、主の権益に対する心を持つためです (マルコ 12:30、ローマ 16:4)。(3) 彼らの意志において。これは、彼らが強くなって、主にとどまり、主を喜ばせる事柄を行なうためです (使徒 11:23、コロサイ 1:10、I テサロニケ 4:1)。

*いつも喜び、絶えず祈り、あらゆる事で感謝し、

E. わたしたちの霊を活用すること、すなわち、神が賜ったわたしたちの霊を再び燃え立たせることは、いつも喜び、絶えず祈り、あらゆることで感謝して、内住する霊を、キリストの中でいっさいの事柄を行なうことの秘訣として享受することです——II コリント 12:2 前半、ピリピ 4:11-13、詩 91:1、I テサロニケ 5:16-18。

*思いを霊に付け、

F. わたしたちの霊を活用すること、すなわち、神が賜ったわたしたちの霊を再び燃え立たせることは、わたしたちの思いを霊に付けることです——ローマ 8:6、マラキ 2:15-16:

1. わたしたちは思いを霊に付けるとき、命と平安という内なる感覚、すなわち強さ、満足、安息、解放、活発さ、潤い、明るさ、心地良さの感覚を持ちます。
2. わたしたちは思いを肉に付けるとき、死という内なる感覚、すなわち弱さ、むなしさ、心配、不安、意気消沈、渇き、暗やみ、苦痛の感覚を持ちます。
3. わたしたちのクリスチャン生活は、正しいか間違っているかの標準にしたがっているのではなく、わたしたちの霊の中の命と平安という内なる感覚にしたがっています——ローマ 8:6、II コリント 2:13-14。

*霊を魂から識別することです——

G. わたしたちの霊を活用すること、すなわち、神が賜ったわたしたちの霊を再び燃え立たせることは、わたしたちの霊を魂から識別することです——ヘブル 4:12:

1. わたしたちは常に警戒して、霊からでなく魂 (自己) から出ているものをすべて識別し、拒絶すべきです——マタイ 16:25、参照、ルカ 9:25。
2. わたしたちであるすべて、持っているすべて、行なうすべては、霊の中になければなりません。神がわたしたちにとって何であるかのすべては、わたしたちの霊の中

にあります——ローマ 2:28-29. 1:9. 8:4. 12:11。

***そして、正常な召会生活をし、召会の墮落に打ち勝つことです**

- H. わたしたちの霊を活用すること、すなわち、神が賜わったわたしたちの霊を再び燃え立たせることは、純粋な心で主を呼び求める人たちと共にキリストを追い求めることによって、正常な召会生活をし、召会の墮落に打ち勝つことです——Ⅱテモテ 2:22。

***神の権益のために祈ることです**

- I. わたしたちの霊を活用すること、すなわち、神が賜わったわたしたちの霊を再び燃え立たせることは、神の永遠のエコノミーにおける目標としての神の権益（キリスト、神の王国、神の家）のために、個人的でまた何かを打ち明けるように祈って神に近づくことです——Ⅱテモテ 1:6-8. Iテモテ 1:3-4. 2:1-3, 8. 列王上 8:48. ユダ 19-21 節。